

金田一京想煙軒

内裏寺千圓 町神宮市東國衆代大 御道河



「おとこるゆき」



金 田 一 春 彦 歌 碑

所在地 大分県国東市安岐町 両子寺境内

歌 碑（横書き）

（この下に縦で次の言葉が書かれている）

金田一春彦先生は大正二年(一九一三)金田一京助先生の子として誕生。国語学者として「日本語」日本人の「言語表現」等多くの著書あり。
平成二年四月十六日当山に参拝され父の歌碑を見て次の歌を残す。

山川の瀬音の中に身を置けば

亡き父の我を諭す声聞こゆ

春彦書

金田一春彦の碑

内閣参事 東京大学文学部教授 金田一春彦



金原省吾歌碑

所在地 東京都調布市深大寺町元五十五 深大寺境内

みほとけの眼のかたち思ひつゝ、心は

親し慨くに似たり

金原省吾

碑陰

昭和二十四年八月二日一周忌に当りて之れを建つ

金原省吾博士業績記念会

略歴

金原省吾（せいご）旧姓 河西 明治二十一年九月一日 長野県諏訪郡湖東村に生まれる 長野師範卒業後 早稲田大学哲学科卒業 昭和三十三年八月二日歿す 享年六十九歳 墓は長野県大町市九日四八 弾誓寺墓地にある



金原省吾歌碑

所在地 東京都調布市深大寺元 5-15 深大寺境内

みほとけの眼のかたち思ひつゝ心は
親し概くに似たり 金原省吾

碑陰

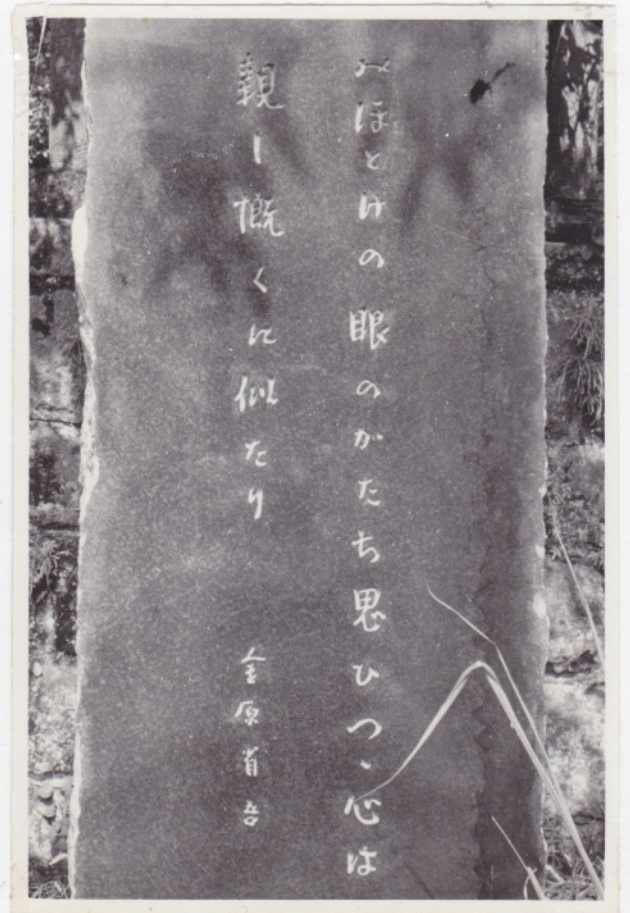
昭和三十四年八月二日一周忌に当りて之を建つ
金原省吾博士業績記念会

略歴

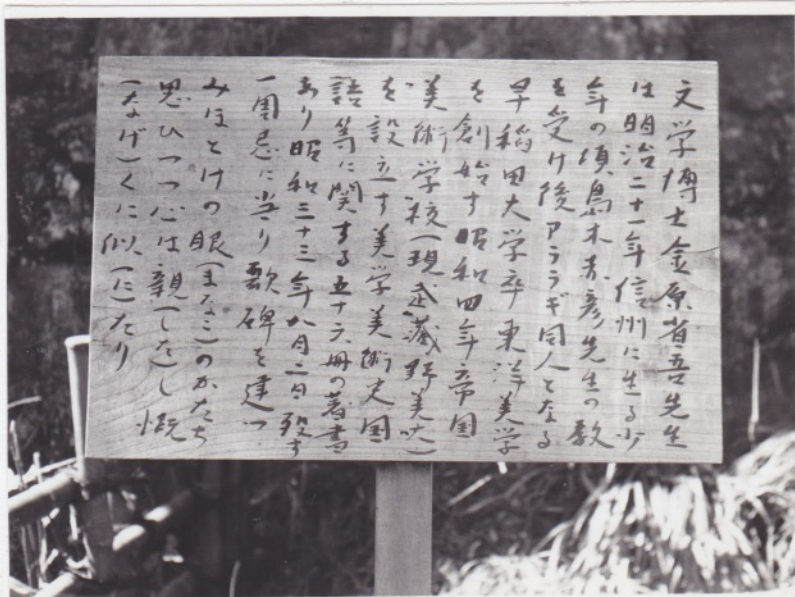
金原省吾(せいご) 明治 21 年 9 月 1 日 長野県諏訪郡に生まれる 早稲田大学
哲学科を卒業 昭和 33 年 8 月 2 日歿す 享年 69 歳 墓は長野県大町市九日
4188 弾誓寺墓地にある



金原省吾博士の墓 昭和二十一年八月一日 早稲田大学文学部
 金原省吾博士の墓 昭和二十一年八月一日 早稲田大学文学部



みほとけの眼のかたち思ひつゝ心は
 親に似たり
 金原省吾



文学博士金原省吾先生
 は明治二十一年信州に生る少
 年の頃島本赤彦先生の教
 を受け後アラギ同人とな
 早稲田大学卒業東洋美学
 を創始す昭和四年帝國
 美術学校（現武蔵野美術大）
 を設立す美学美術史国
 語等に関する五十五冊の著書
 あり昭和三十三年八月二日歿す
 一周忌に當り歌碑を建つ
 みほとけの眼（まなこ）のかたち
 思ひつゝ心は親（おや）に似
 （まが）くに似たり



深大寺の山門



金原省吾歌碑

所在地 長野県茅野市穂積町 玉川支所前

至
3661-1

山鳩乃古恵伎久時者還

還志心父乃美靈乎在梨

止肆相心波无

青五

(注) 山鳩のこゑ聞く時は運々し父のみ靈をありとし想はむ 青五 と読む

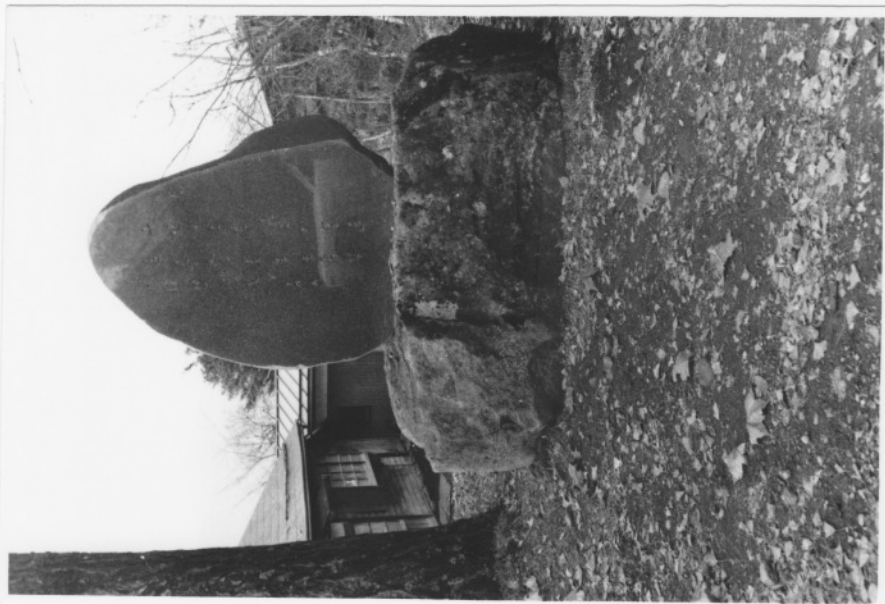
碑陰

金原省吾先生歌碑

島木赤彦先生との出会いの

地に之を建てる

昭和四十七年八月六日 建立会



金原省吾歌碑

所在地 長野県茅野市玉川神ノ原 玉川地区センター敷地内

山鳩乃古恵伎久時者遠

遠志父乃美霊乎在梨

止肆想波无

青五

(山鳩のこゑ聞く時は遠々し父のみ霊をありとし想はむ 青五 と読む)

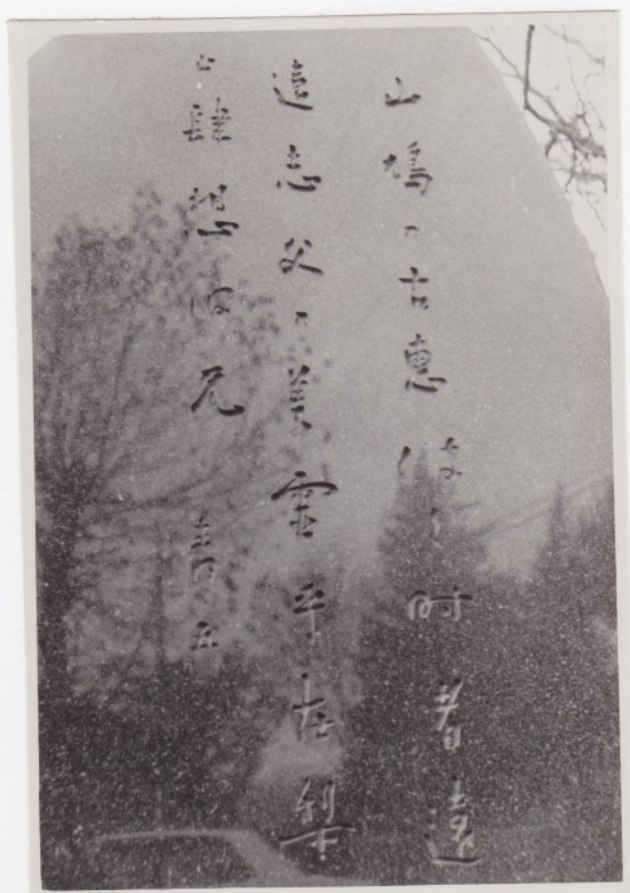
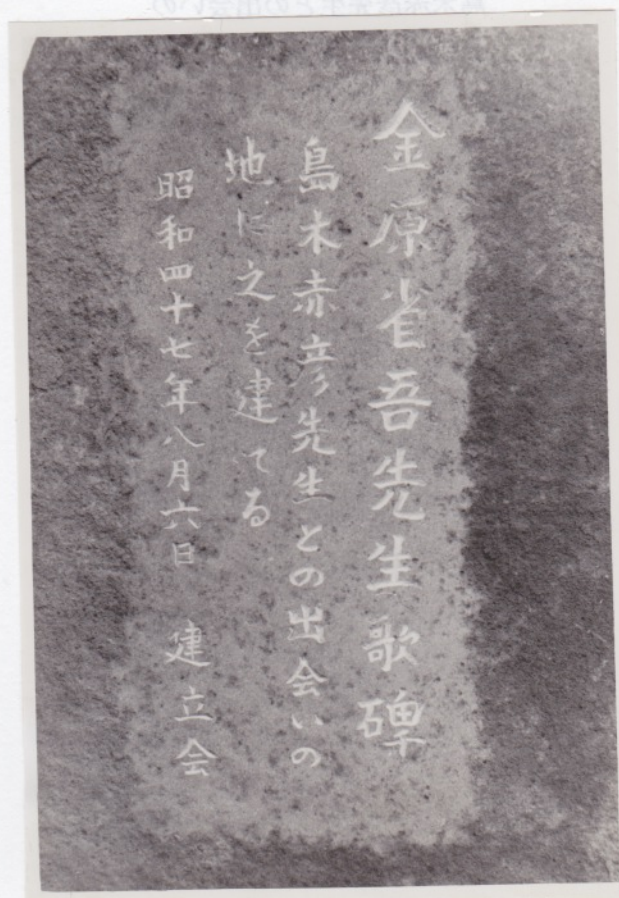
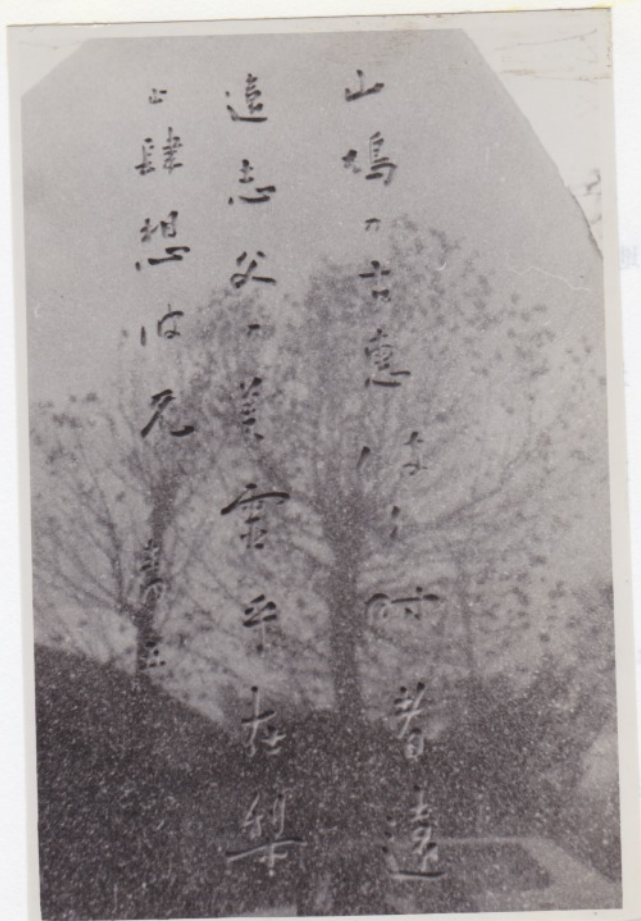
碑陰

金原省吾先生歌碑

島木赤彦先生との出会いの

地に之を建てる

昭和四十七年八月六日 建立会



草川 信記念碑

所在地 東京都渋谷区恵比寿二丁目一 長谷戸 (ながと) 小学校前

譜 曲 の 焼 小 焼 夕

詞 曲 作 作 紅 信 雨 村 草
やけこやけの碑

草川 信 先生は 大正六年三月に音楽学校を卒業、同年四月より長谷戸小学校の若き音楽教師として着任。昭和二年四月までの十余年勤務されました。その間、児童の音楽教育に情熱を傾けられ、本校児童の音楽的才能の啓発、向上に尽力、幾多の功績を残されました。さらに、本校在職中に児童の愛唱歌をつぎつぎに作曲・発表。子どもたちはこの歌を口ずさみながら、成長しました。ここに創立七十五周年を記念して 草川先生を偲び この顕彰碑を建立するものであります

作曲作品
「ゆりがこの歌」「どこかで風が」「風」「夕焼け小焼け」「春の歌」、「風鈴」「緑のそよ風」「汽車ポッポ」他
昭和六十二年十一月吉日

記念碑建立実行委員会

小学校 同窓生
長谷戸小学校長 油成賢壽

碑 陰

文字なし

略 歴

草川 信 明治二十六年三月十四日
長野市に生まれる 東京音楽学校甲種師範科卒業 昭和二十三年九月二十日歿す 享年五十五歳



草川 信 記 念 碑

所在地 東京都渋谷区恵比寿 1-23-1 長谷戸(ながやと)小学校 校門前

夕 焼 小 焼 の 曲 譜 (五 線 譜)

夕 や け こ や け の 碑 中村雨紅作詩

草川 信作曲 (以上横書き)

(この下に次の文章が縦書きで書かれている)

草川信先生は 大正六年三月に音楽学校を卒業、同年四月より長谷戸小学校の若き音楽教師として着任、昭和二年四月までの十余年勤務されました。

その間、児童の音楽教育に情熱を傾けられ、本校児童の音楽的才能の啓発、向上に尽力、幾多の功績をのこされました。

さらに、本校在職中に児童の愛唱歌をつぎつぎに作曲・発表。

子どもたちはこの歌を口ずさみながら、成長しました。ここに創立七十五周年を記念して草川先生を偲びこの顕彰碑を建立するものであります

作曲作品

「ゆりかごの歌」「どこかで風が」「風」

「夕焼け小焼け」「春の歌」「風鈴」

「緑のそよ風」「汽車ポッポ」他

昭和六十二年十一月吉日

記念碑建立実行委員会

長谷戸小学校 同窓生

長谷戸小学校長 池田成男謹書

碑陰

文字なし

略歴

草川 信 明治26年2月14日

長野市に生れる 東京音楽学校

甲種師範科卒業 昭和23年9月

20日歿す 享年55歳

草野心平記念碑

所在地 福島県双葉郡川内村字早瀬 天山文庫

天 山

碑陰

昭和四十四年七月

建立 心平書





草履

御清酒

天

天山文庫
への
アツボ
← ↓



心平住居にかけである扁額
← (山端、成書)

草野心平記念碑近くの句碑

所在地 福島県双葉郡川内村字早瀬 天山文庫近く

柴 かり に

鶯 の や ど

の こ し け り

無得

「天山句会を 愛し 育く
まれし 御厚恩に 報い
まつらむとしてこれを建
つ 昭和四十五年 冬」

碑陰不明

(多分文字なしと思う)





「世傳」
(に思ふ「が宇文伝」)



草野心平詞碑

所在地 福島県双葉郡川内村三合田 長福寺境内

長福寺
雨蕭々 心平

(注) これらの文字の周りにも色々と文字はあるが読み難い 寄せ書きや落書きなので面白いが残念

右側面

(ここにも色々と書いてあるが省略)

昭和廿四年秋
建立

碑陰
文字なし

略歴

草野心平 明治三六年五月十二日 福島県石城郡上小川村(現いわき市小川町)に生まれる 慶応普通部より嶺南大学に行き中退 昭和六三年十二月十二日歿す 享年八五歳 墓は福島県いわき市小川町上小川樋ノ内四三常慶寺墓地に
ある



草野心平詞碑

所在地 福島県双葉郡川内村上川内三合田 29 長福寺境内

長 福 寺

心 平

雨 蕭 々

(注) これらの文字の周りにも色々と文字があるが読み難い
寄せ書きや落書きなので面白いが残念

右側面

(ここにも色々と書いてあるが省略)

昭和卅四年秋

建立

碑陰

文字なし

略歴

草野心平 明治 36 年 5 月 12 日 福島県石城郡上小川村(現いわき市小川町)
に生れる 慶応普通部より嶺南大学に行き中退 昭和 63 年 11 月 12 日歿す
享年 85 歳 墓は福島県いわき市小川町上小川槇ノ内 42 常慶寺墓地にある



草履心

酒造 福泉

吳 謝 寺

雨 蕭



草野心平詞碑

所在地 福島県双葉郡川内村三合田 長福寺梵鐘

南無觀世音菩薩
徹誠書

里方十々
心平書

(省略)

南無觀世音菩薩

(省略)

昭和四十二年五月鑄造

(省略)



草野心平詞碑

所在地 福島県双葉郡川内村上川内三合田 長福寺梵鐘

南無觀世音菩薩
徹誠書

韻々

方十

里

心平書

(省略)
南無觀世音菩薩
(省略)
昭和四十三年五月 鑄造
(省略)

川内三合田 長壽寺



(鐘 音)



草野心平詩碑

所在地 群馬県前橋市千代田町三十二 前橋文学館前 朔太郎橋

春

草野心平

碑陰

文字なし

天下は実に春で。

雲はのぼせてぼうつとしてるし。

利根川べりのアカシヤの林や桃畑の中をあるき。

おつけのおかずになづなをつみ土筆をつみ。

なんとも美しいバラの新芽をつみ。

樹木や草からは新しい精神が。

それらがやはらかにぬくまつて燃え。

五六羽小鳥たちはまぶしくうるむ空をかすめて。

流れてゆくその方向遙かに。

雪の浅間の噴煙が枝々の十文字交叉をとほして……。

虫けらたちも天に駆けあがりたいこの天気。

ああ。実際。

土筆の頭の繁殖作用や。

せきこんで水を吸ひ上げる樹木の内部の活動や風のそよぎや。

よろこびのものうい音楽はみち。

なづなをつんでるおれとおまへよ。

尾長猿のやうに木をとびまはり夜叉になり。この豊満をなま

たくなり……。



草野心平詩碑

所在地 群馬県前橋市千代田町 3-12-10 前橋文学館前 朔太郎橋

春

草野心平

天下は実に春で。
雲はのぼせてぼうつとしてるし。
利根川べりのアカシヤの林や桃畑の中をあるき。
おつけのおかずになづなをつみ土筆をつみ。
なんとも美しいバラの新芽をつみ。
樹木や草からは新しい精神が。
それらがやはらかにぬくまつて燃え。
五六羽小鳥たちはまぶしくうるむ空をかすめて。
流れてゆくその方向遥かに。
雪の浅間の噴煙が枝々の十文字交叉をとほして……。
虫けらたちも天に駆けあがりたいこの天気。
ああ。実際。
土筆の頭の繁殖作用や。
せきこんで水を吸ひ上げる樹木の内部の活動や風のそよぎや。
よろこびのもののうい音楽はみち。
なづなをつんでるおれとおまへよ。
尾長猿のやうに木をとびまはり夜叉になり。この豊満をなきたくなり……。

碑陰

文字なし



草野心平詩碑

所在地 広島県広島市中区 平和公園内 慰霊碑左側 平和記念館

平和祈念像に
寄せて

天心の三日月の上に
幻でない母と子の像
これこそ永遠の平和の
象徴
童子よ母の愛につままれて
金のトランペット吹き鳴らせ
天にも地にも透明な
平和の調べ吹きおくれ
どんな未来がこようととも
頬つべいつばいふくらまし
No More Hiroshima の
金のトランペット吹き
鳴らせ

一九七八年八月
草野心平

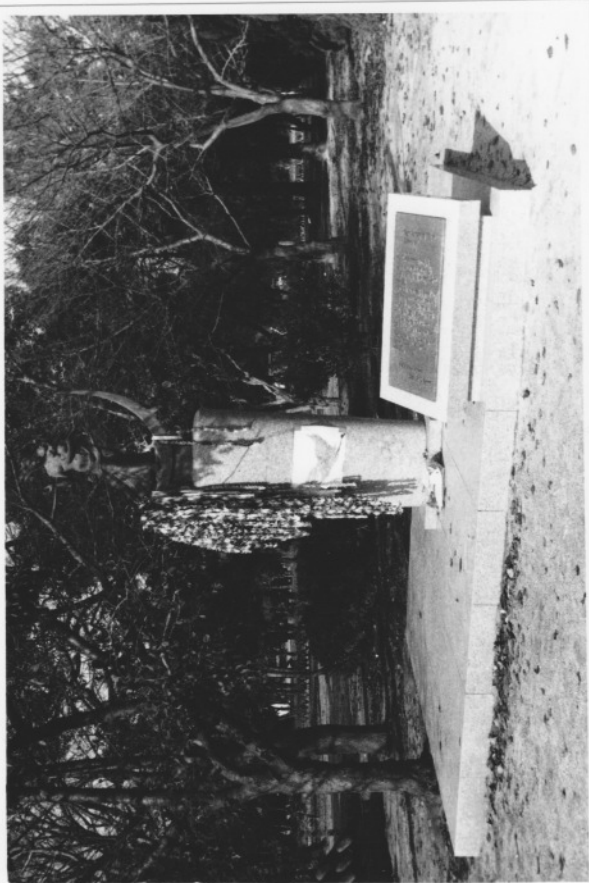
詩碑裏面 文字なし

表面 平和祈念像

裏面

とぞ 類性的展的の
墟上 応人様めを自へ
歴史 にと爆な動の和
を界い 声威原の連立平
市世なの脅は願金達久
金はき 飲の々を募像恒
は美で 戦争我和の界
囚事は 雲戦て平財に世
の 一た事精核つの浄にや
の っるるによ久け、ず
像 弾去れ眠た。怒がこ必
今 爆い忘にまる類び会は。
子奪に下いい人呼ている。
祈原を遠地がてめに得願す
和 命永はたれし徒をの信
日生て々来さら生力々確
平 6のし我てか足量協我と8
月万と け脅遠見のの年
8 余事親に永の体。も5
年 有恨望め安を国団たる和
20 痛癢求不命全志しじ昭
和 2大来をの生て有成通
昭し一爾和亡のねし達に
化の 平滅君が開を遣

三井物産伊藤
建設田鶴二
像建門
平和祈念表
彫刻館
広島



草野心平詩碑

所在地 広島県広島市中区 平和公園内 慰霊碑左側 平和祈念像横

(詩碑)

平和祈念像に
寄せて

記念碑表面 (横書き)

平和祈念像

天心の三日月の上に
幻でない母と子の像
これこそ永遠の平和の
象徴
童子よ母の愛につままれて
金のトランペット吹き鳴らせ
天にも地にも透明な
平和の調べ吹きおくれ
どんな未来がこようと
頬っぺいっぱいふくらまし
No More Hiroshima の
金のトランペット吹き
鳴らせ

記念碑裏面 (横書き)

平和祈念像

一九七八年八月
草野心平

詩碑碑陰
文字なし

昭和 20 年 8 月 6 日、原子爆弾の一閃は全市を廃墟と化し 20 有余万の生命を奪い去った事実は世界史上での一代痛恨事として永遠に忘れる事はできない。
爾来幾星霜、我々は地下に眠る精霊歎歎の声に応え平和を求め続けて来たがいまだに核戦争の脅威と人類滅亡の不安に脅かされている。よって我々は原爆犠牲者の生命を永遠足らしめ人類悠久の平和を願うため、かねて全国の児童生十に呼びかけ浄財の募金運動を展開し有志団体の協力を得て今ここにこの像建立の目的を達成した。我々の願いは必ずや世界恒久平和への道に通じるものと確信する。

昭和 52 年 8 月

広島平和祈念像建設会

代表 前田伊織

彫刻 円鏑勝二



草

詩酒

(興)

天の三日月の土

段江(式)の土



ローサ平八

か 02 余衣の坐命全きき けい 式事実の世果史土

草 櫻 小 平



草野天平詩碑

所在地 滋賀県大津市比叡山 西塔 路傍

辨慶の飛び六法

勸進帳を觀て

一つの傷も胸の騒ぎもなく
眞に為し
さうして終った
独り凝つと動かず
晴れ渡る安宅の空に
知らず知らず涙が滲じむ
沁み徹る人生の味
成就の味

草野天平

碑陰(裏)

辨慶の飛び六法

勸進帳を觀て

草野天平

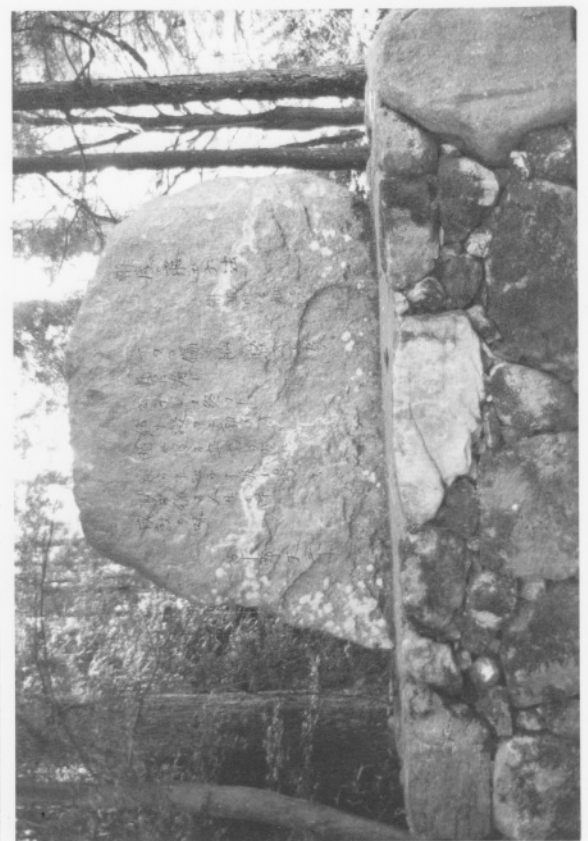
一つの傷も胸の騒ぎもなく
眞に為し
さうして終った
独り凝つと動かず
晴れ渡る安宅の空に
知らず知らず涙が滲じむ
沁み徹る人生の味
成就の味
困憊も無事も共にいい

あの一つ一つが機微をもち
動けば動く本気の態度
結局立合ひは一と一そしてまた五分と五分だ
何処まで続くのか
此のからからと乾く邊地の旅
聴くただ棒立になつて聴く
淡々としてまた峨々として
ただ黙して音もない
ああ皆んな行く行く
生きるも死ぬも一本の道
音がする
音がする
内外一度に新しい音がする
ようしさうだ
天上と天下と東西南北
深く大きな息をして杖を取り直し
遊僧の
まるで怒るやうに眞つ直ぐ見据えた
第一歩
馬鹿とか頓馬とか忠不忠
色さまざまな地上の聲聲
一步さらに一步
正直な胸と脚をもつ是非の露拂ひ
五つを動かし五つを沈め
引き緊め緩めて
段段段段
実に在るやうに
腰を据えてゆく

碑陰(裏)

草野天平—明治四十年生—は、昭和五年六月、東京を離れ、比叡山に着いた。詩集「ひとつの道」に続く詩を案じての旅である。宿院、本覚院に一時逗留したが、後、松禪院に移り、そのまゝ、昭和三年四月五日、その生涯を終える。時に四歳であった。天平は、比叡山の總てを愛し、簡素な生活のなかで、弁慶の飛び六法その他を仕上げた。ここに、その生活と詩業を記念し、詩碑が建つ。天平の詩魂のあまねく翔りゆかんことを。

(昭和六年八月、梅乃記)



草野天平詩碑

所在地 滋賀県大津市坂本本町 4220 比叡山延暦寺 西塔 路傍

辨慶の飛び六法

勸進帳を観て

一つの傷も胸の騒ぎもなく
眞に為し
さうして終った
独り凝っと動かず
晴れ渡る安宅の空に
知らず知らず涙が滲じむ
沁み徹る人生の味
成就の味

草野天平

碑陰（下段）

草野天平—明治四三年生—は、昭和二五年六月、東京を離れ、比叡山に着いた。
詩集「ひとつの道」に続く詩を案じての旅である。

宿院、本覚院に一時逗留したが、後、松禅院に移り、そのまゝ昭和二七年四月二五日、その生涯を終える。時に四二歳であった。

天平は、比叡山の総てを愛し、簡素な生活のなかで、弁慶の飛び六法 その他を仕上げた。

ここに、その生活と詩業を記念し、詩碑を建つ。

天平の詩魂のあまねく翔りゆかんことを。

（昭和六一年八月、梅乃記）

（碑陰の上段は次の頁に続く）



草



碑陰（上段）

辨慶の飛び六法

勸進帳を観て

草野天平

一つの傷も胸の騒ぎもなく

眞に為し

さうして終った

独り凝っと動かず

晴れ渡る安宅の空に

知らず知らず涙が滲じむ

沁み徹る人生の味

成就の味

困憊も無事も共にいい

あの

一つ一つが機微をもち

動けば動く本気の態度

結局立会ひは一と一そしてまた五分と五分だ

何処まで続くのか

此のからからと乾く邊地の旅

聴くただ棒立ちになって聴く

淡々としてまた峨々として

ただ黙して音もない

ああ皆んな行く行く

生きるも死ぬも一本の道

音がする

音がする

内外一度に新しい音がする

ようしさうだ

天上と天下と東西南北

深く大きな息をして杖を取り直し

遊僧の

まるで怒るやうに眞つ直ぐ見据えた

第一歩

馬鹿とか頓馬とか忠不忠

色さまざまな地上の聲聲

一步さらに一步

正直な胸と脚をもつ是非の露払ひ

五つを動かし五つを沈め

引き緊め緩めて

段段段段

実に在るやうに

腰を据えてゆく

（下段に続く）



草野心平記念碑(植村直巳墓誌)

所在地 東京都板橋区赤塚 5-28-3 乗運寺東霊園 た区画

地球には
もう彼はゐない
けれども生きてゐる
修身に化けて
植村直巳は
私たちの中に
生きつゞ
ける

草野心平

裏面

乾坤院直誉美心不撓居士

昭和五十九年二月十六日

植村直巳 行年四十三才

昭和六十年六月一日

施主 植村公子

12551018



東京大仏
←

草野心平書扁額

所在地 福島県田村郡三春町 町役場(?)

瀧 櫻

梅 桃 櫻

三 春 の (二字読めず)

春 一 等 の

瀧 櫻

萬 朶 の 花 は

盛 り あ が り

す だ れ 瀧 に な っ て

垂 れ さ が る

日 本 一 と も 言 は れ て る

ベ ニ シ ダ レ の

こ の 見 事 さ

美 し さ

背 景 は あ や め

の 空 と

羊 雲

草 野 心 平

草履心平書風



謝三春
謝一
萬葉
参り
すがら
龍は
無れ
日本一
とも
言ふ
れり
ベニ
ダレ
の
この
見事
さ
奥し
さ
背景
はあ
やめ
の空
と
草履
草履
心平



日本
一
の
見
事
さ
奥
し
さ
背景
はあ
やめ
の空
と
草履
草履
心平

九條武子歌碑

所在地 北海道旭川市神居古潭 旧駅前 大橋袂

たきつ波ましろう白う岩にちる

神居古潭のくもれる真晝

九條武子の歌

桑鳩書

碑陰

昭和三十一年五月 旭川市建之

略歴

九條武子 明治三十年十月二十日 京都市の西本願寺に生まれる 大谷光尊の次女 京都師範付属小学校中退 家庭教師で学ぶ 昭和三年二月七日歿す 享年四十歳 法名 嚴浄院釋尼鏡照 墓は東京都杉並区永福二八一 和田堀廟所と京都市東山区 西大谷廟所内 名著堂右側の両所にある



九條武子歌碑

所在地 北海道旭川市神居古潭 旧駅前 大橋の袂

たきつ波 ましろう白う 岩にちる
神居古潭のくもれる真晝

九條武子の歌

桑鳩書

碑陰

昭和三十一年五月 旭川市建之

略歴

九條武子 明治20年10月20日 京都市の西本願寺に生れる 大谷光尊の次女 京都師範付属小学校中退 家庭教師で学ぶ 昭和3年2月7日歿す 享年40歳 法名 嚴浄院釋尼鏡照 墓は東京都杉並区永福1-8-1 和田堀 廟所と 京都市東山区 西大谷廟所内 名著堂右側の両所にある



九條武子歌碑

所在地 北海道空知郡上富良野町 十勝岳中腹

武子

たまゆらにけむり

碑陰

おさめて

しっ

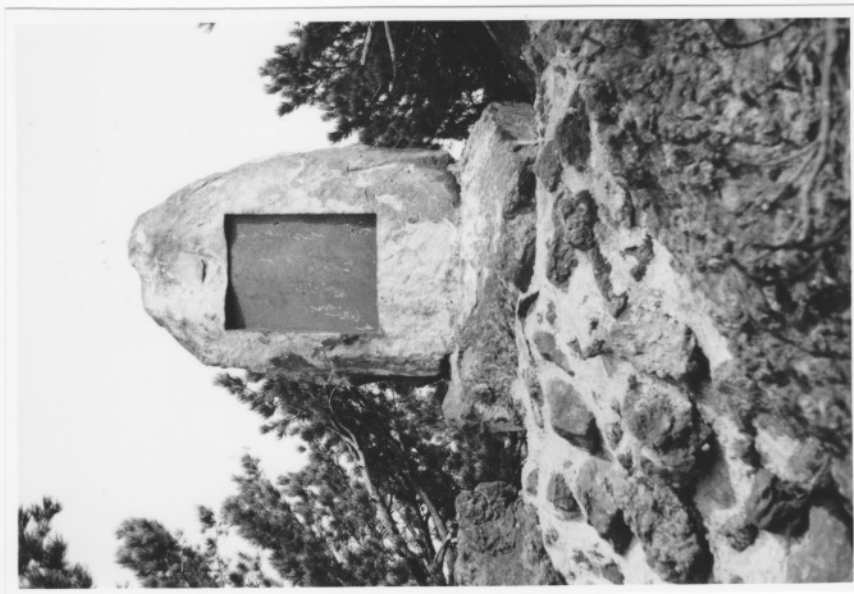
かなる

文字なし

山にかへれ
は

みるに
したし

も



九條武子歌碑

所在地 北海道空知郡上富良野町 十勝岳中腹

武子

たまゆらにけむり

おさめて

しつ

かなる

山にかへれ

は

みるに

したし

も

碑陰

文字なし



↓ 十勝岳

↓ 三段山



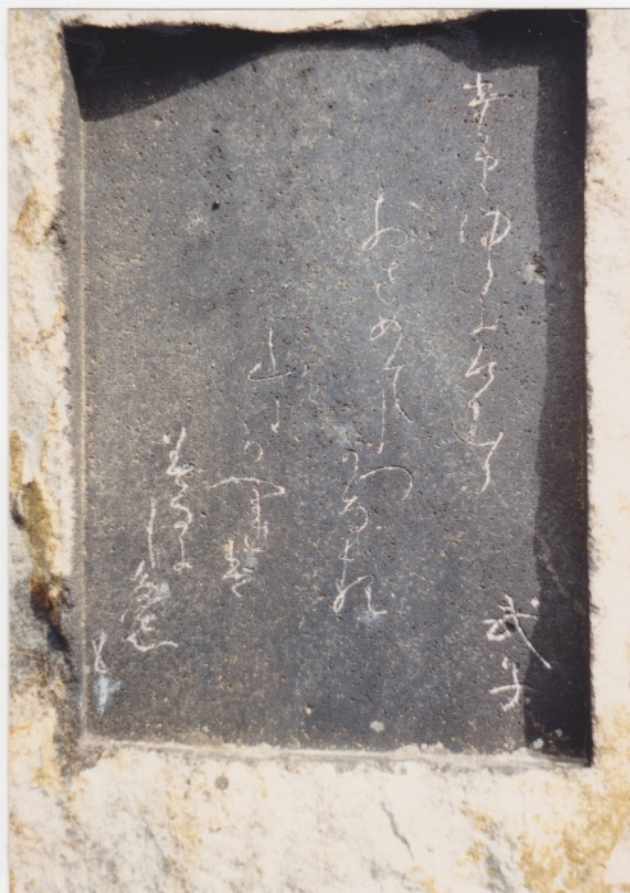
→ フラノ川

↓ 十勝岳

↓ 三段山



→ 飛流地帯には一木もなし



2013
オグササキ
↓

2052
美瑛富士
↓

2052
美瑛富士
↓

2077
十勝岳
↓

2077
十勝岳
↓

1877
カミホロカメツ
↓

1912
富良野岳
↓



十勝連峰



白銀荘へ途中より見た山々
↓





九條武子歌碑

所在地 岩手県盛岡市北山一四五 願教寺境内

嶋地大等ぬしを

いたみておもへる

碑陰

文字なし

武子

(注) 説明板より

昭和四十七年七月三日の建立

かひなかりかへらぬこととしれとわれ
こゝろたるまでをしといわまく

幾億年みそらのほしも滅するを
とはのいのちに君いてけりや

きみにきゝし勝鬘經のものかたり
こゝろはこゝろはにひかりありしか

あの甥はいとけなくして爺とよひ
きみのこゝろにそだてられにき

ぬはたまの心のやみに點さむと
とはのともし火きみとりまし、



九條武子歌碑

所在地 岩手県盛岡市北山 1-4-5 願教寺境内

嶋地大等ぬしを

いたみておもへる

武子

かひなかりかへらぬこととしれとわれ
こゝろたるまでをしといわまく

幾億年みそらのほしも滅するを
とはのいのちに君いてけりや

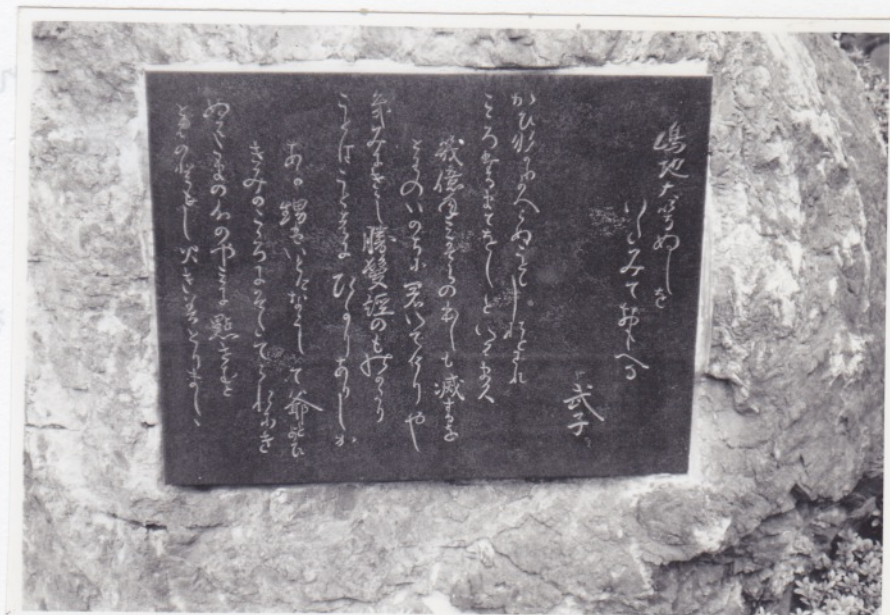
きみにきゝし勝鬘經のものかたり
ことはことはにひかりありしか

あの甥はいとけなくして爺とよひ
きみのこゝろにそたてられにき

ぬはたまの心のやみに點さむと 碑陰

とはのともし火きみとりましゝ 文字なし

(注) 説明板より 昭和四十七年七月三十日の建立



九條武子歌碑

所在地 東京都中央区築地三十五 築地本願寺境内

おほいなる

たけ子

もの「ちから
に

ひかれ
ゆく

わか
あしあとの

おほつか
なしや

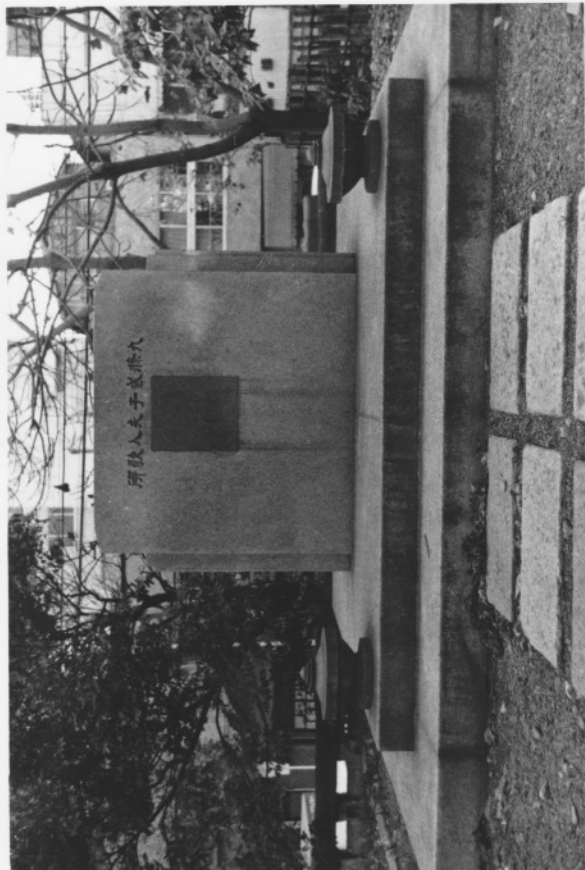
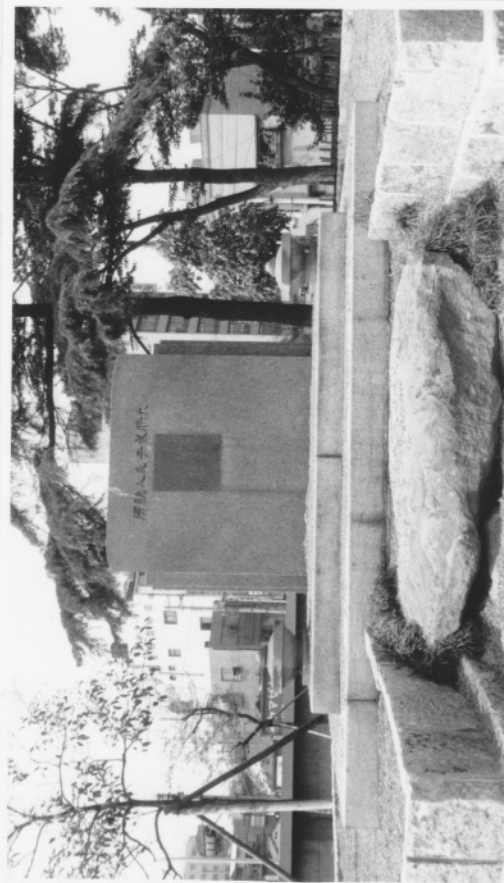
碑陰

才色双絶ノ九條夫人ハ近
代女流ノ第一人者ニシテ
ソノ著無憂華ハ一世ヲ風
靡シタ真ニコレ千古不朽
ノ名著デアル吾社ハソノ

ノ故ヲ以
ニ諮リ茲
シタ

田義一識

谷尊由
村豊周
川松崧



九條武子歌碑

所在地 東京都中央区築地 3-15 築地本願寺境内

九條武子夫人歌碑

(この下に縦書きで次の歌が書かれている)

たけ子

おほいなる

ものゝちから

に

ひかれ

ゆく

わか

あしあとの

おほつか

なしや

碑陰

才色双絶ノ九條夫人ハ近
代女流ノ第一人者ニシテ
ソノ著無憂華ハ一世ヲ風
靡シタ眞ニコレ千古不朽
ノ名著デアル吾社ハソノ
著ヲ刊行シタルノ故ヲ以
テ廣ク世ノ讀者ニ諮リ茲
ニ斯ノ碑ヲ建立シタ

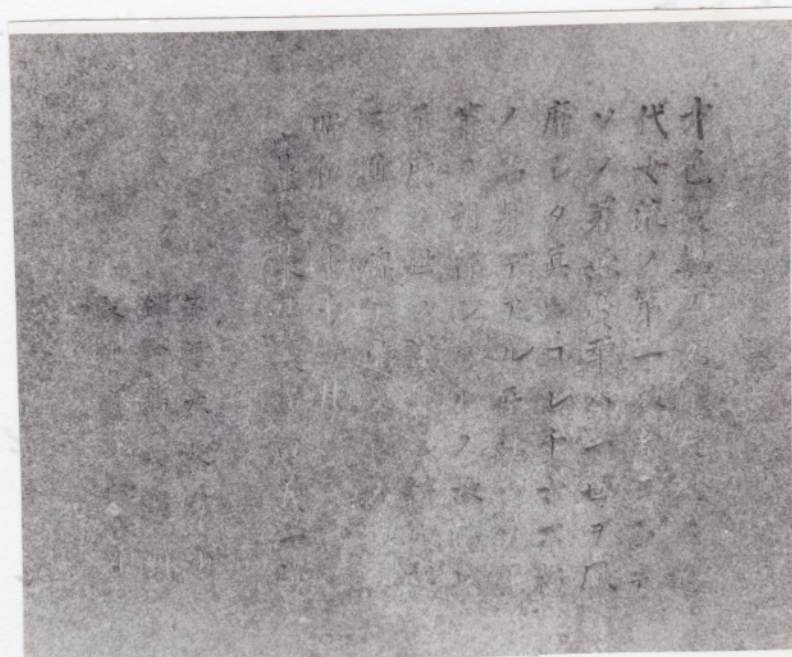
昭和九年十一年

實業之日本社社長 増田義一識

篆額 大谷 尊由

鑄金 高村 豊周

設計 廣川松五郎



由華 谷大 爾漢
國豊 村高 金剛
頭正 野川 寛 博



九條武子歌碑

所在地 新潟県長岡市渡里町三三二 西福寺境内

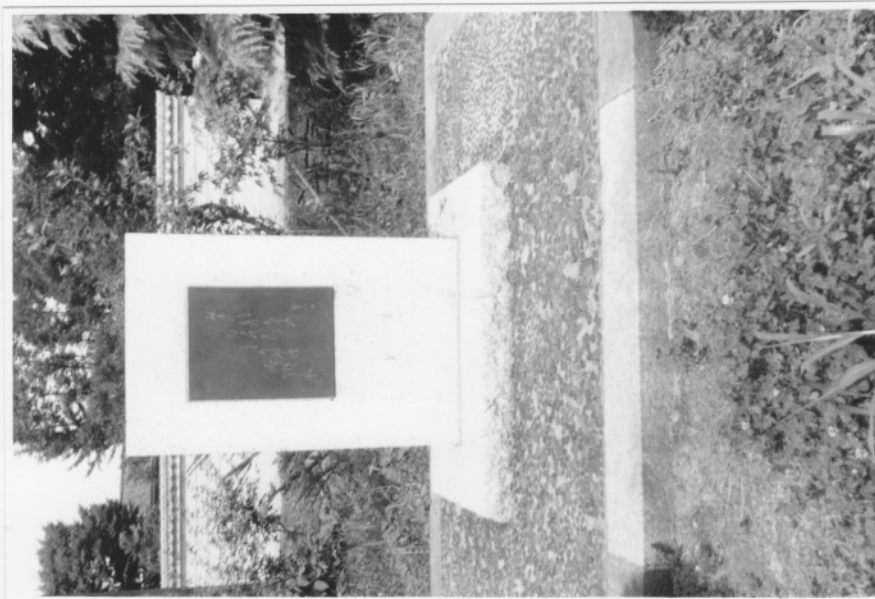
おほいなる
たけ子
ものゝちから
に
ひかれ
ゆく
わか
あしあとの
おほつか
なしゃ

碑陰

九條武子総裁歌碑

大正五年当寺廿三世住職俊学殿法友佛教
婦人会創設・翌六年四月十三日大会に九
條総裁御来泊・五十年記念に歌碑建立す
昭和四十年六月十日記念法要除幕式に本
願寺大谷嬢子御裏様御来寺自ら除幕さる

西福寺廿四世藤井慧真識



九條武子歌碑

所在地 新潟県長岡市渡里町 3-21 西福寺境内

たけ子

おほいなる

ものゝちから

に

ひかれ

ゆく

わか

あしあとの

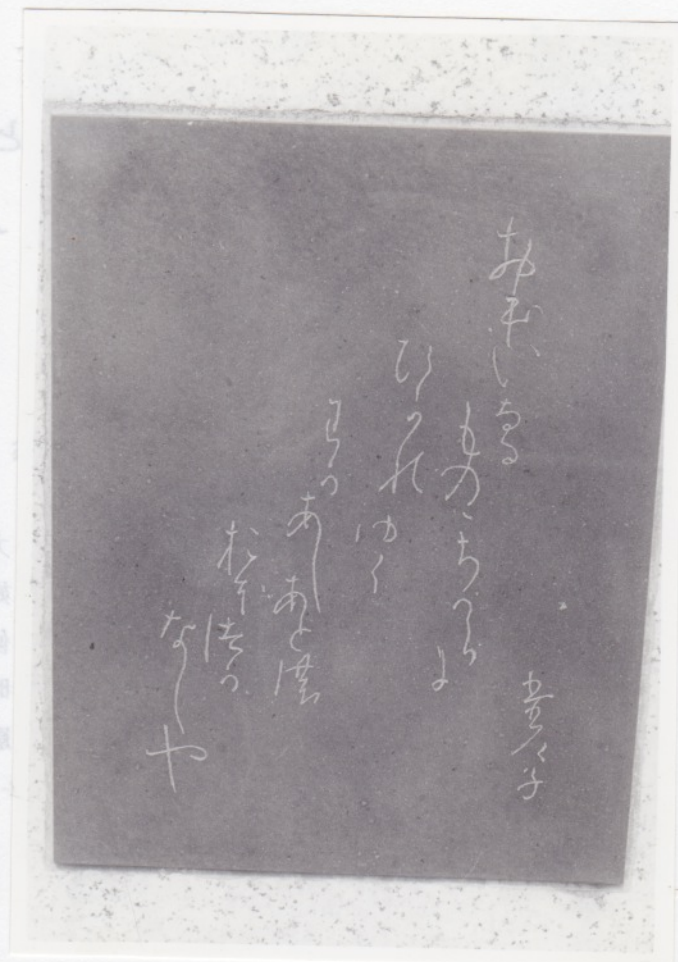
おほつか

なしや

碑陰

九條武子総裁歌碑

大正五年当寺廿三世住職俊学殿法友佛教
婦人会創設・翌六年四月十三日大会に九
條総裁御来泊・五十年記念に歌碑建立す
昭和四十年六月十日記念法要除幕式に本
願寺大谷嬉子御裏様御来寺自ら除幕さる
西福寺廿四世藤井慧眞識



九條武子歌碑

所在地 富山県富山市総曲輪二七三 西別院本願寺 本堂前

おほいなる

たけ子

碑陰

文字なし

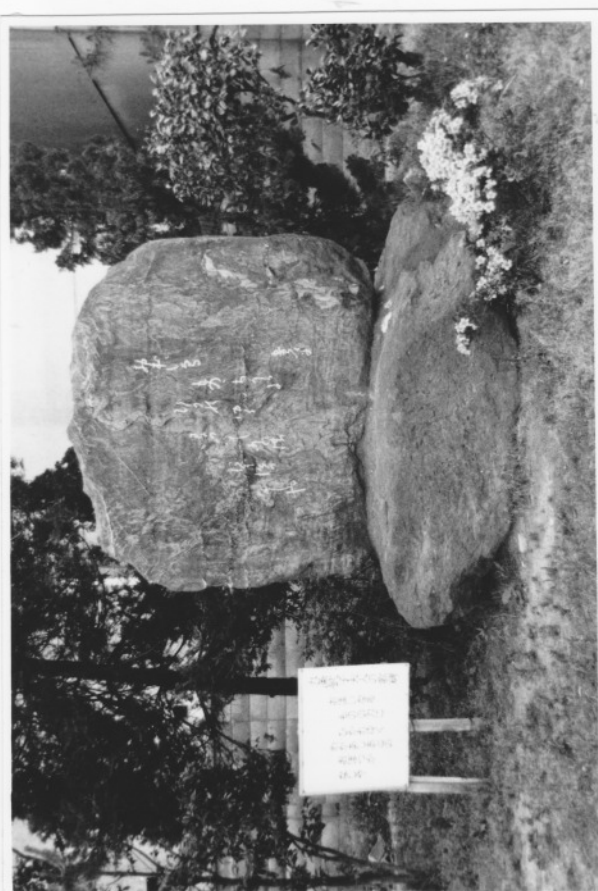
ものちから
に

ひかれゆく

わがあし

あとの

おほつが
なしゃ



九條武子歌碑

所在地 富山県富山市総曲輪 2-7-12 西別院富山本願寺 本堂前

たけ子

おほいなる

ものゝちから

に

ひかれ

ゆく

わか

あしあとの

おほつか

なしや

碑陰

文字なし



九條武子歌碑

所在地 滋賀県大津市坂本本町三〇 比叡山延暦寺 釈迦堂前

紅子筆

九條武子夫人歌

山の院欄干の端に

せきれいの巢あり

ひな二つ母もちて鳴く



この碑の歌は故九條武子夫人の歌集薫染の中の一
目であります

お筆は大谷紅子裏方で
あります

昭和二十九年六月六日建立

浄土真宗本願寺派

佛教婦人会総連盟



九條武子歌碑

所在地 滋賀県大津市坂本本町 4220 比叡山延暦寺 西塔釈迦堂前

九條武子夫人歌

絃子筆

山の院櫺子の端に

せきれいの巢あり

ひな三つ母まちて鳴く

碑陰

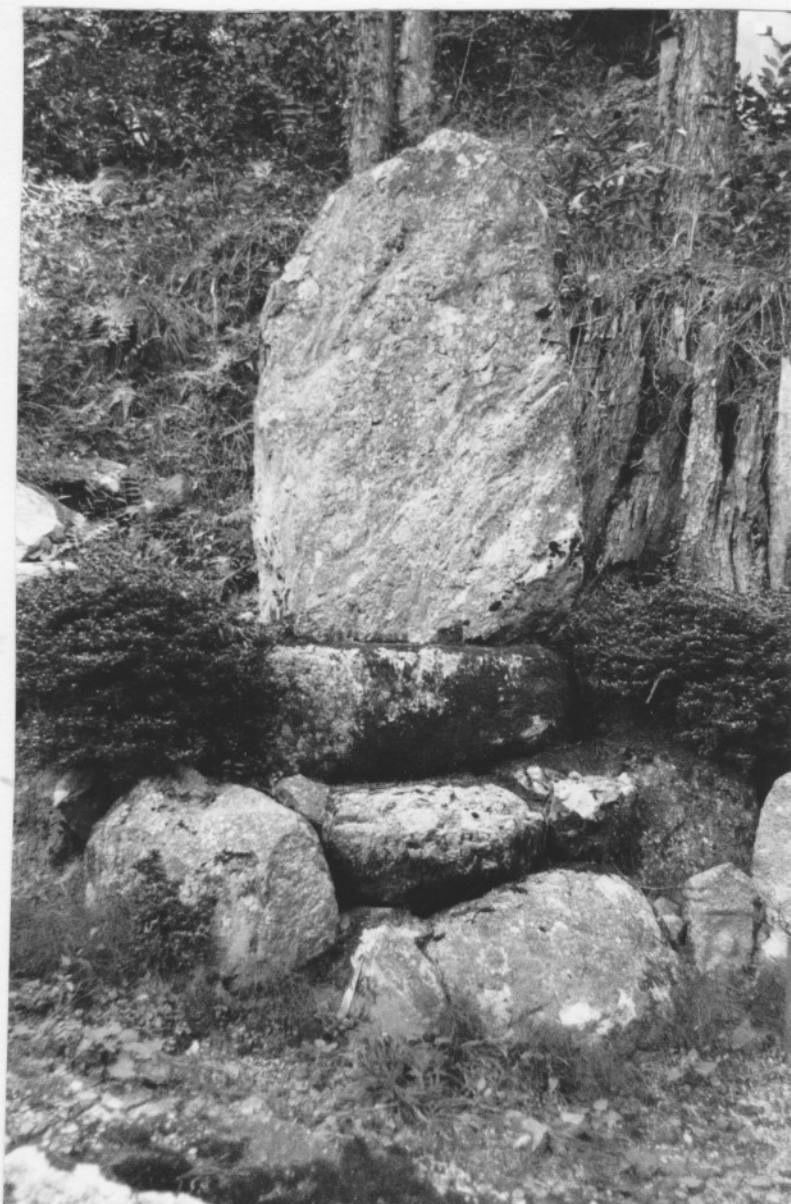
この碑の歌は故九條武子
婦人の歌集薫染の中の一
首であります

お筆は大谷絃子裏方で
あります

昭和二十九年六月十六日建立

浄土真宗本願寺派

佛教婦人会総連盟



前堂感野原西 寺園至山陽出

華千珠

三



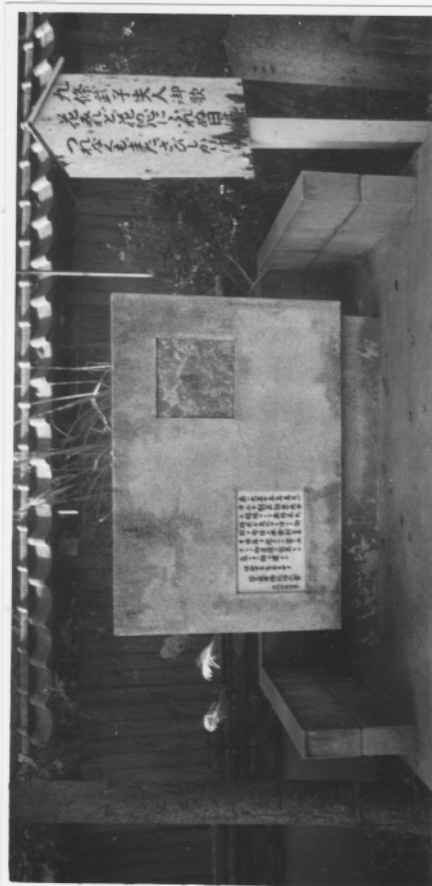
九條武子歌碑

所在地 山口県柳井市柳井新町三番二 誓光寺境内

はなみれと
花のこころに
ふれぬ日は
つれなくも
また
さびし
かり

武子

碑陰
文字なし



左下

去ル大正十五年五月一日
創立記念大会



本部長九
頃イタ御
云創立五
ニ當リ永
敬慕スル
ニテル
月卅日
会夫人会
職拝書

九條武子歌碑

所在地 山口県柳井市柳井新町 3461 誓光寺境内

けり

はなみれと

武

花のこゝろ

子

に

ふれぬ日は

つれなくも

また

さひし

かり

碑陰

文字なし

左下

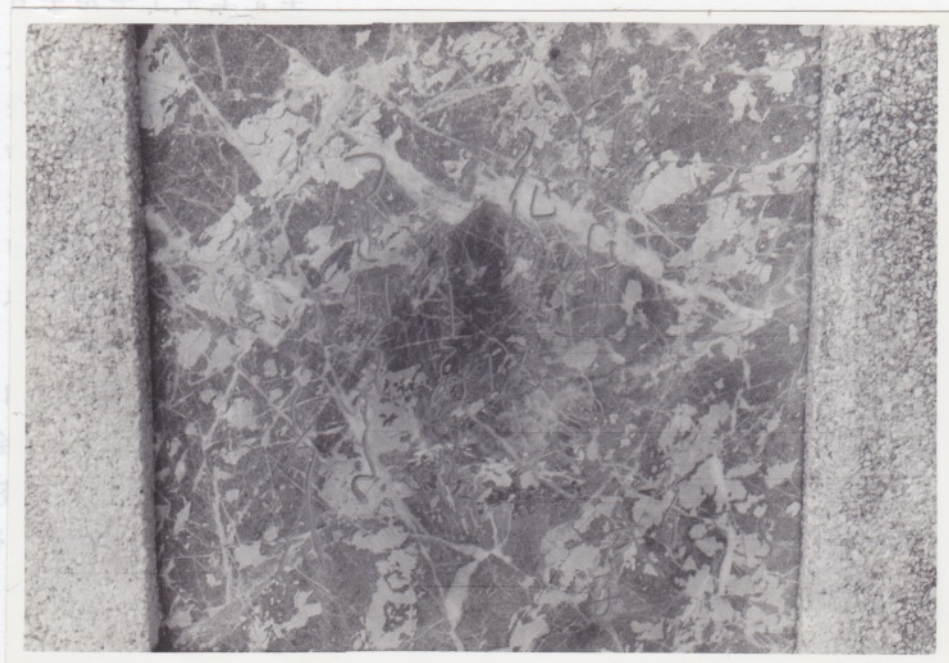
去ル大正十五年五月一日二日 創立記念大会ニ臨場サレタ本部長九條武子夫人ヨリ頂イタ御歌ヲ今茲ニ本会創立五十周年ヲ迎エルニ當リ永クソノ御遺徳ヲ敬慕スル為ニコノ碑ヲ建テル

昭和廿五年五月卅日

誓光寺佛教婦人会

廿代住職拝書

(注) 碑石は其の後変更になっている



九條武子歌碑

所在地 大分県別府市 上人ヶ浜公園内

やわらかき

湯氣に

身をまわく

われも

よし

今宵おぼろ
の

月影も

よし

九條武子

碑陰

別府市制施行四十五周年を
記念してこれを建立する
昭和四十三年秋

別府市長 荒金啓治



九條武子歌碑

所在地 大分県別府市上人ヶ浜町 上人ヶ浜公園内

やはらかき

湯氣に

身をおく

われも

よし

今宵おぼろ

の

月影も

よし

九條武子

碑陰

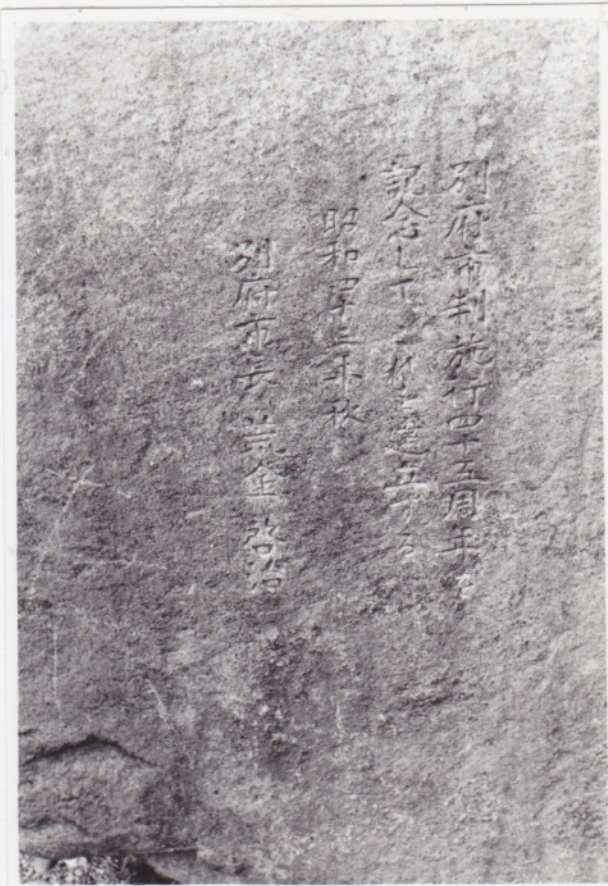
別府市制施行四十五周年を
記念してこれを建立する

昭和四十三年秋

別府市長 荒金啓治



大



九條武子歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町四四二一 文学碑公園内

武子

おほいなる

碑陰

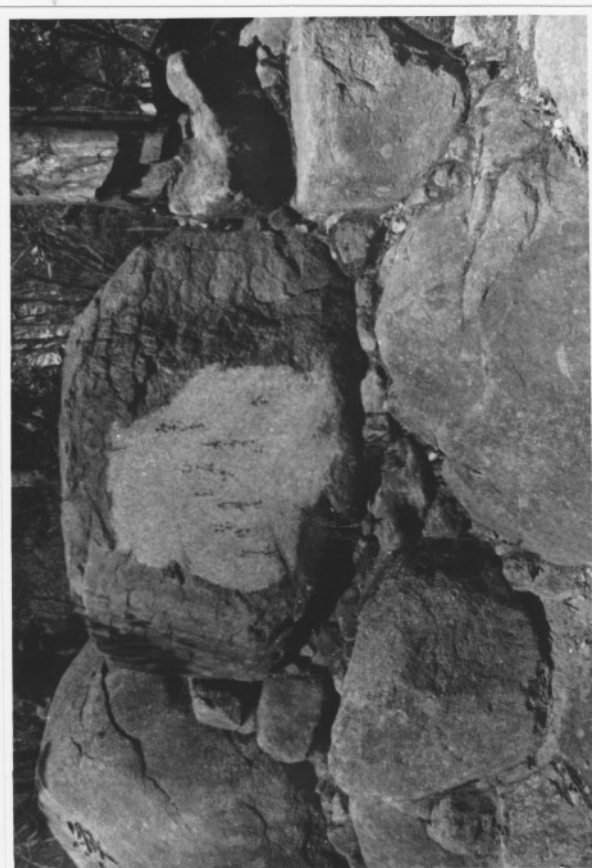
文字なし

ものまちから
に

ひかれ
ゆく

わか
あしあとの

おほつか
なしゃ



九條武子歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4-41-12 文学碑公園内

武子

おほいなる

ものゝちから

に

ひかれ

ゆく

わか

あしあとの

おほつか

なしや

碑陰

文字なし



楠本憲吉句碑

所在地 山形県村山市楯岡 楯隣正寺境内

鴉叫ぶ日ぞ人生に

碑陰

借りなどなし

昭和四十八年十一月

本堂落慶記念

楠本憲吉

向陽山十世慶三代

略歴

楠本憲吉 大正十二年十二月十九日 大阪市北浜に生まれる 慶大政治学科 仏文科を共に卒業 国学院大学博士課程修了 昭和六十二年十二月七日歿す 享年六十五歳 法名 燦光院憲譽紫泉方壺大居士 墓は東京都目黒区中目黒二二四一五三 祐天寺墓地にある



楠本憲吉句碑

所在地 山形県村山市楯岡 盾 隣正寺境内

鵲 叫ぶ日ぞ人生に

借りなどなし

楠本憲吉

碑陰

昭和四十八年十一月

本堂落慶記念

向陽山十世 慶三代

略歴

楠本憲吉 大正 11 年 12 月 19 日 大阪市北浜に生れる 慶大政治科 仏文科
を共に卒業 国学院大学博士課程修了 昭和 63 年 12 月 18 日歿す 享年丁度
66 歳 法名 燦光院憲譽紫泉方壺大居士 墓は東京都目黒区中目黒 2-24-53
祐天寺墓地にある



本願寺
外三門 背十山園向



楠本憲吉句碑

所在地 東京都港区六本木七丁目二 シーボングリーンドル各

秋風や銅に

刻まれたる

裸身

楠本憲吉

ブロンズ像はロダン作『瞑想』

像の右側の説明板

『瞑想』に寄せて

東郷青児先生の遺志を継いで

ここ東京・六本木のこの地に

ロダンの名作『瞑想』を置き

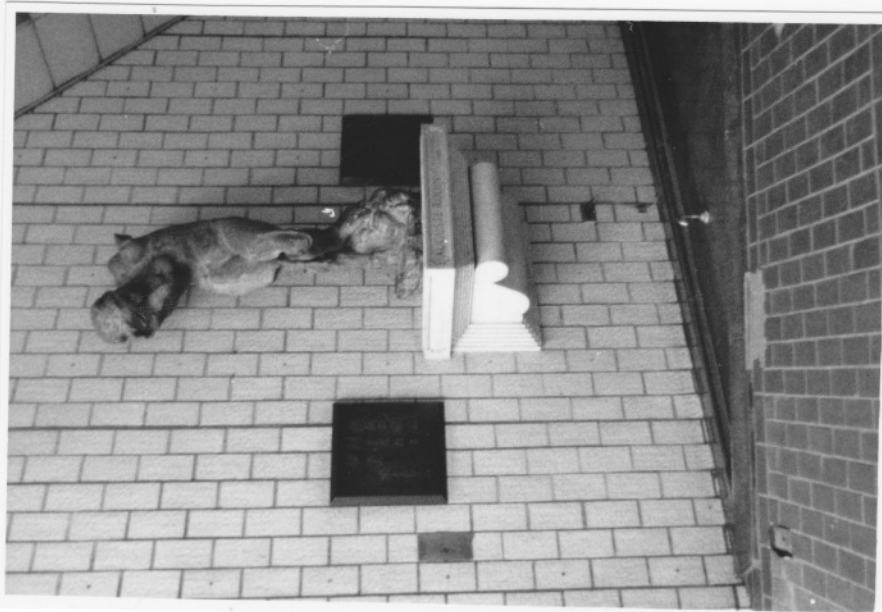
愛の泉 幸福の泉を築く

若ものたちの愛に

実り多かれと祈りつつ……

一九六五年

犬塚尚典 識



楠本憲吉句碑

所在地 東京都港区六本木 7-18-12 「シーボンクィーンビル」 入口

秋風や銅に
刻まれたる
裸身

楠本憲吉

ブロンズ像はロダン作『瞑想』

像の右側の説明板

『瞑想』に寄せて
東郷青児先生の遺志を継いで
ここ東京・六本木のこの地に
ロダンの名作『瞑想』を置き
愛の泉 幸福の泉を築く
若ものたちの愛に
実り多かれと祈りつつ……

一九七八年九月

犬塚尚典 識



蘇本赫

東京都 豊島区

今風将

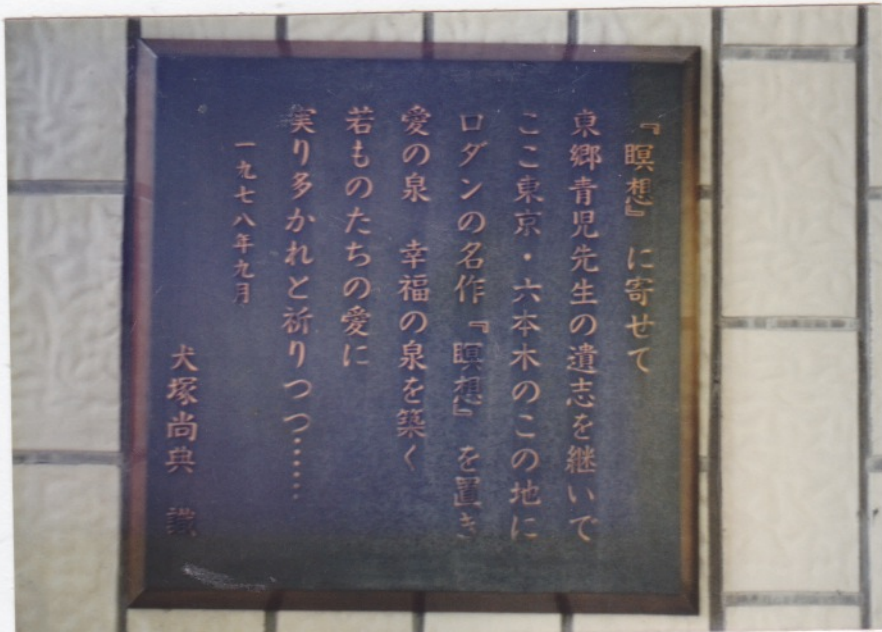
大井町

食料

蘇本赫



秋風必銅に
刻されたる
裸身
橋幸恵立



『瞑想』に寄せて
東郷青児先生の遺志を継いで
ここ東京・六本木のこの地に
ロダンの名作『瞑想』を置き
愛の泉 幸福の泉を築く
若ものたちの愛に
笑り多かれと祈りつつ……
一九七八年九月

犬塚尚典

楠本憲吉俳句碑

所在地 東京都足立区六月三十三 炎天寺境内

蝉声降りしきれ

碑陰

碑誌

寺領に

子どもらに

憲吉

近隣の数校の協力から始まった全国
小中学生俳句大会も今年で十年。

全国津々浦々から二万五千句の参加
をみている。

この間当初より選者として御尽力い
ただいている楠本憲吉先生の碑を建
立しその記念とする。

レタリングデザイン金子芳昭

権大僧正 堅清 合掌

昭和四十七年十一月二十三日



楠本憲吉句碑

所在地 東京都足立区六月 3-13-20 炎天寺境内

蝉声降りしきれ
寺領に
子どもらに
憲吉

碑陰

碑誌

近隣の数校の協力から始まった全国
小中学生俳句大会も今年で十年。
全国津々浦々から二万五千句の参加
をみている。

この間当初より選者として御尽力い
ただいている楠本憲吉先生の碑を建
立しその記念とする。

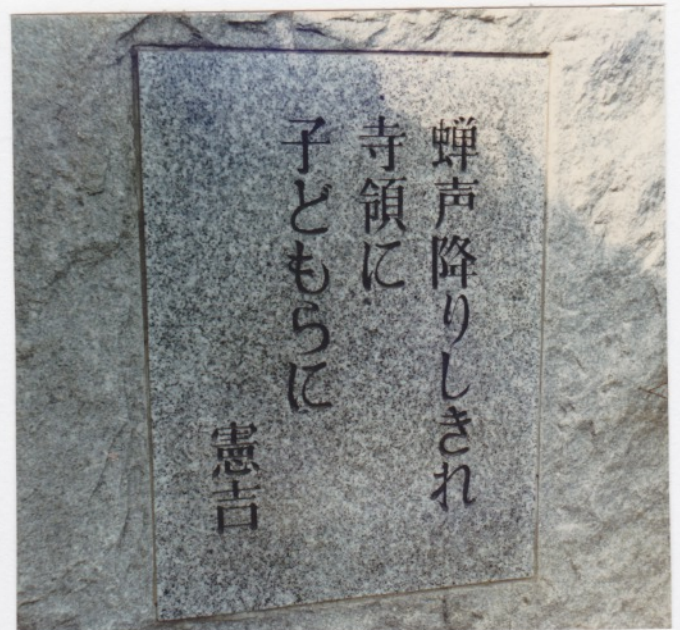
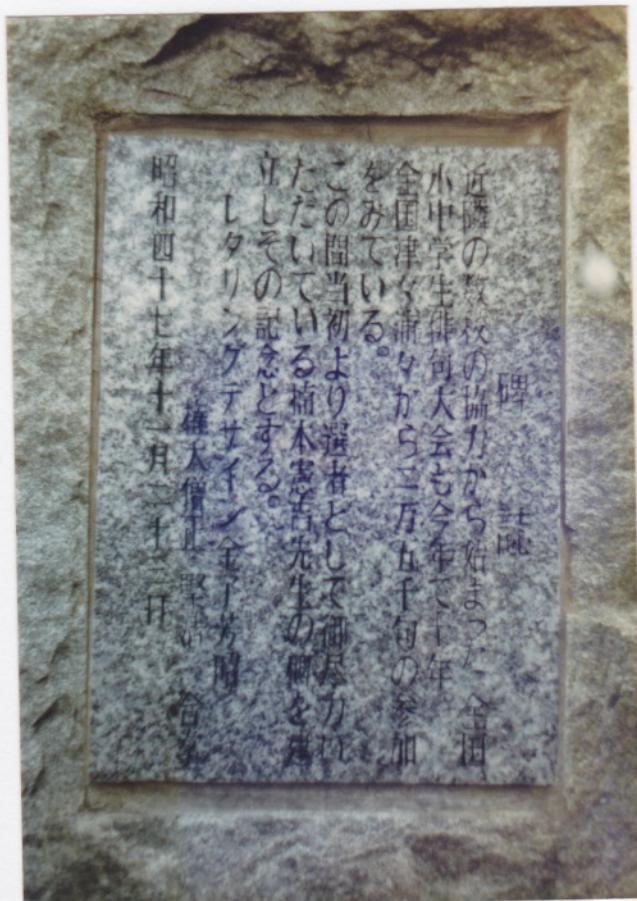
レタリングデザイン金子芳昭

権大僧正 堅清 合掌

昭和四十七年十一月二十三日



全日本少年少女剣道大会
優勝者表彰状
昭和四十七年十一月二十二日



轡田進句碑

所在地 東京都港区芝公園 2-5-20 メルパルク東京 「レストラン フォンテンド」
芝の横

貯金しに

碑陰

来ている母子

文字なし

チューリップ

進

右側面

建立年月 平成六年四月十一日

俳句作者 轡田進

寄贈者 春郊同人誌友一同

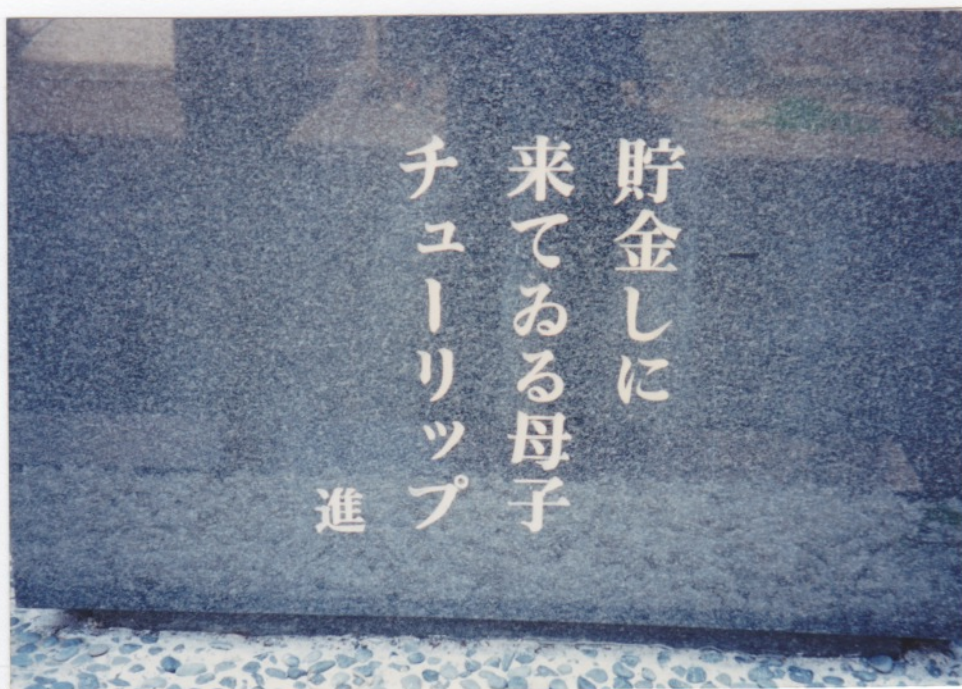
略歴

轡田進 1923年~1999年 東京の人 1942年 富安風生に師事
若葉同人 風生逝去後は 後継主宰の清崎敏郎に師事 中村春逸
創刊主宰の春郊を主宰





墓田 豊 1923年~1988年 東京の人 1943年 富安屋主の墓に
 菅原 人 富安屋主の墓に 菅原 人 富安屋主の墓に 菅原 人 富安屋主の墓に
 菅原 人 富安屋主の墓に 菅原 人 富安屋主の墓に 菅原 人 富安屋主の墓に



邦枝完二句碑

所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町 番所山

黒潮や梅紅白の

碑陰

散るところ 完二

文字なし

略歴

邦枝完二 本名 莞爾 明治三十五年十二月二十八日 東京麹町区平河町に生まれた
慶大予科 東京外語伊語科を共に中退 昭和三十一年八月二日歿す 享年六十三歳



邦枝完二句碑

所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町 番所山

黒潮や梅紅白の

散るところ 完二

碑陰

文字なし

略歴

邦枝完二 本名 莞爾 明治 25 年 12 月 28 日 東京麹町区平河町に生まれた
慶大予科 東京外語伊語科を共に中退 昭和 31 年 8 月 2 日歿す 享年 63 歳



赤木綿9花
 ←

久保猪之吉記念碑

所在地 東京都港区南青山二三三 青山霊園 一種口二五号五側

胸像

Professor Dr. med.

Ino Kubo
1874 1939

台座右側面

昭和二十五年六月建

作者 四三二会

作者 会員 豊島 豊

胸像の裏側

四三二会員

豊島 豊 作

副碑

久保博

君姓久保通稱猪之吉福島縣二本松藩人以明治七年十二月二十六日生學於東京帝國大學醫科大學三十二年卒業三十六年五月官命留學德國四十年一月歸朝任京都帝國大學福岡醫科大學教授同年八月授醫學博士四十四年四月官以福岡醫科大學為九州帝國大學醫科大學大正八年改稱九州帝國大學醫學部君為教授知故累進高等官一等昭和十年二月退官特敘正三位同年五月勅旨授九州帝國大學名譽教授稱號十四年十一月十二日薨享年六十六病革也授旭日重光章可謂榮矣配宮本氏無嗣君資性明敏才業超群於其所專攻耳鼻咽喉之學人仰為斯界泰斗克回生起死乞治療者不絕君又嗜國風俳句鬱成一家頃日及門諸子胥謀曰先生之惠宣碑以傳矣速碑材囑余文嗚呼君之學德為子弟所景仰如此其人格之高可以想見也銘曰

其人如玉
天不假壽

其學曰新
空留貞珉

從二位勲一等松浦鎮次郎家額并撰
昭和十五年十一月十二日

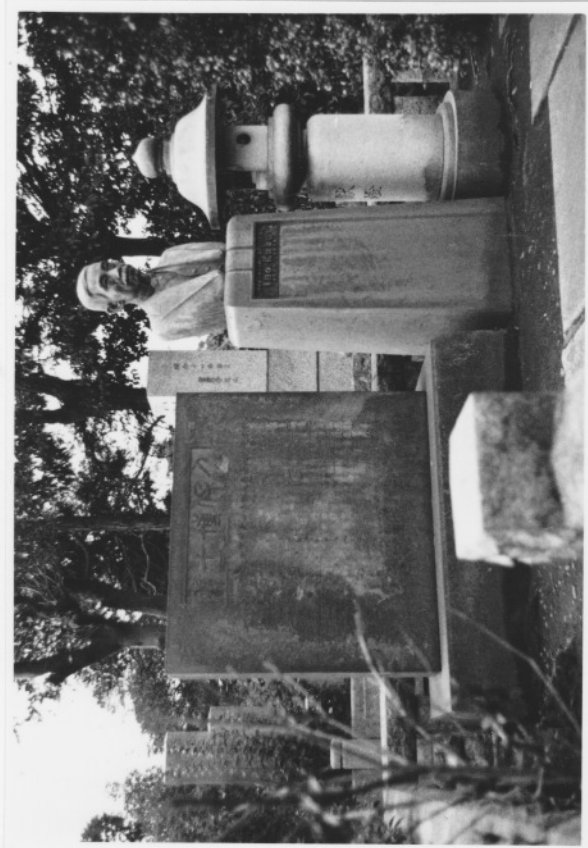
從二位勲二等菅虎雄書

副碑裏面

昭和十五年十一月

當慈明院殿一周忌

門下生四三二会建碑



久保猪之吉記念碑

所在地 東京都港区南青山 2-32 青山霊園 1種口 20号 29側

胸 像

Professor Dr.med. (横書き) 台座右側面

I n o . K u b o .

1874—1939

昭和三十五年六月建

四 三 会

作者 会員 豊島 豊

胸像の裏面

四三会員

豊島 豊 作

副碑

碑 士 博 保 久 (横書き)

(この下に縦書きで次の文がある)

君姓久保通稱猪之吉福島縣二本松藩人以
明治七年十二月二十六日生學於東京帝國
大學醫科大學三十三年卒業三十六年五月
官命留學德國四十年一月歸朝任京都帝國
大學福岡醫科大學教授同年八月授醫學博
士四十四年四月官以福岡醫科大學為九州
帝國大學醫科大學大正八年改稱九州帝國
大學醫學部君為教授如故累進高等官一等
昭和十年二月退官特敍正三位同年五月勅
旨授九州帝國大學名譽教授稱號十四年十
一月十二日薨享年六十六病革也授旭日重
光章可謂榮矣配宮本氏無嗣君資性明敏才
業超群於其所專攻耳鼻咽喉之學人仰為斯
界泰斗克回生起死乞治療者不絕君又嗜國
風俳句鬱成一家頃日及門諸子胥謀曰先生
之惠宣碑以傳矣選碑材囑余文嗚呼君之學
德為子弟所景仰如此其人格之高可以想見
也銘曰

其人如玉 其學曰新

天不假壽 空留貞

昭和十五年十一月十二日

從二位勲一等松浦鎮次郎篆額并撰

從三位勲三等菅虎雄書

副碑裏面 (縦書き)

昭和十五年十一月

當慈明院殿一周忌

門下生四三会建碑

昭和30年02月02日

福島の戦後

三井物産

三井物産



久保猪之吉歌碑

所在地 福岡県福岡市東区馬出三二一 九大医学部構内 久保通

(銅像)

久保猪之吉先生

裏面

昭和九年十二月除幕
門下生一同建之

略歴

久保猪之吉 明治七年十二月二十六日 福島県二本松町に生まれる 東大医学部卒業 昭和十四年十二月十二日歿す 享年六十四歳 法名 慈明院殿 光譽仁道文昭大居士 墓は東京都港区南青山 青山霊園 一種三十九号三十九側に在る

(歌碑)

霧ふかき

南独逸の

朝の窓

おぼろに

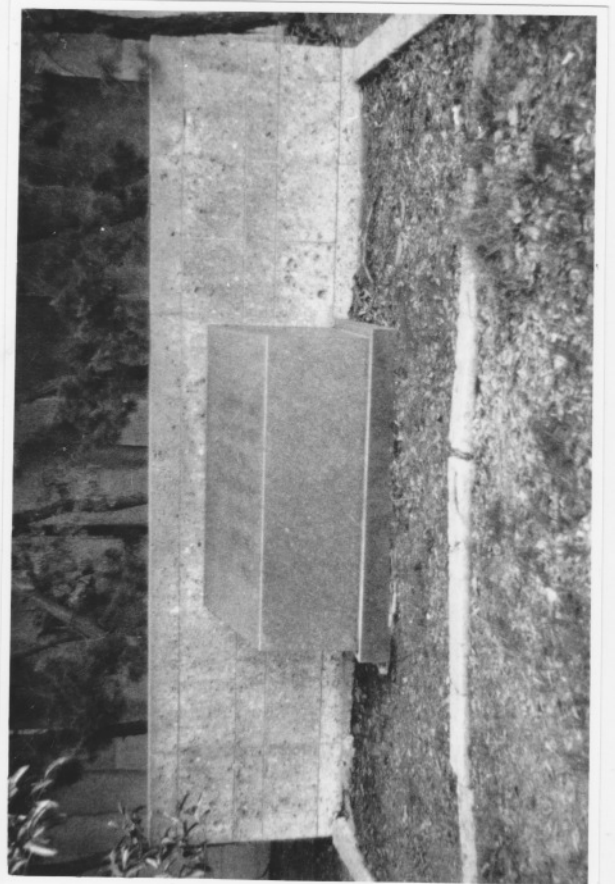
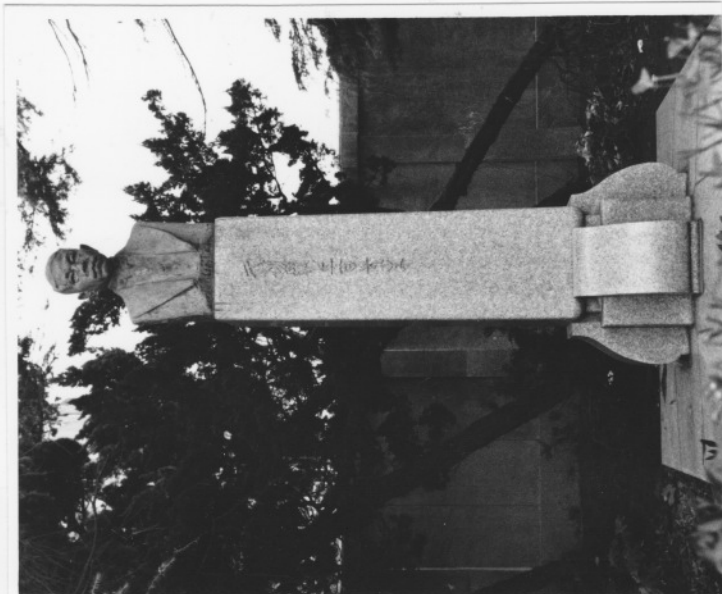
うつれ

故郷の山

る乃吉

右側面

久保猪之吉先生歌碑
一九六〇年五月
建立



久保猪之吉歌碑

所在地 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1 九大医学部構内 久保通り

(胸像)

胸 像 久 保 猪 之 吉 先 生

裏面

昭和九年十二月除幕

門下生一同建之

(歌碑)

霧 ふ か き

南 独 逸 の

朝 の 窓

お ぼ ろ に

う つ れ

故 郷 の 山

ゐ 乃 吉

右側面

久保猪之吉先生歌碑

一九六〇年五月

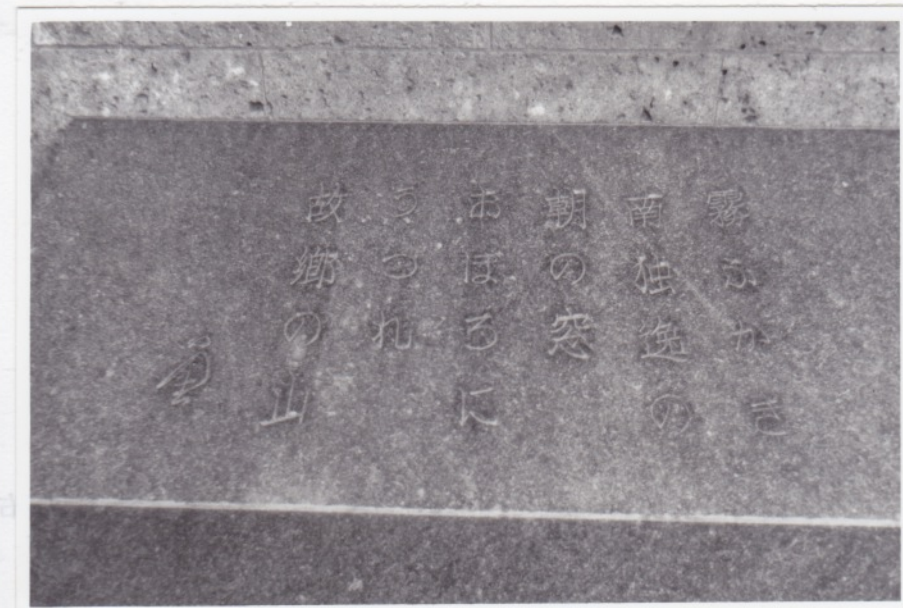
建立

略歴

久保猪之吉 明治 7 年 12 月 26 日 福島県二本松町に生まれる 東大
医学部卒業 昭和 14 年 11 月 12 日歿す 享年 64 歳 法名 慈明院殿
光譽仁道文昭大居士 墓は東京都港区南青山 青山霊園 1 種口 20 号
29 側にある



の墓郷南



久保記念館
←

入口右側のプレート

久保記念館
Kubo-Museum
gebaut 1927

久保白船句碑

所在地 山口県徳山市公園区 徳山市立動物園入口 機関車のうしろ

踞れはふきのたう

白船

碑陰

白船は本名久保周一徳山佐渡町に住む
少壮より俳句の道に入りて層雲社同人
中の錚々たり當地に雑草の会を主宰す
昭和十六年五月二十日歿す行年五十八
郷里佐合島に葬る遺著ふきのたう有り

荻原井泉水誌



